

国立天文台・天文情報センター・アーカイブ室 中桐正夫

### 「水沢にもあったフランス製プラン子午儀」

4月26日(土曜日)、三鷹キャンパスに残された1号官舎の保存と活用WGのメンバーの一員として水沢VERA観測所を訪れた際、亀谷さんに水沢に残っている古い観測機器をいろいろ見せていただいた。この文章は、この水沢の古い観測機器、測定機器探索報告2号である。

今から約80年の昔、科学画報という雑誌が誠文堂から発行されていて、その1927年9巻6号(=臨時増刊号)に理学博士ABCを著者として「日本に於ける天文学史」という記事が掲載されている。その中に大正14年に東京と水沢にフランスのプラン会社から新式の子午儀が輸入されたと記されている。また、大正15年に発行された「最新科学講座」第2回配本の中に水野良平氏が書かれた「天文学」に東京天文台のプランの子午儀が紹介されている(写真1)。

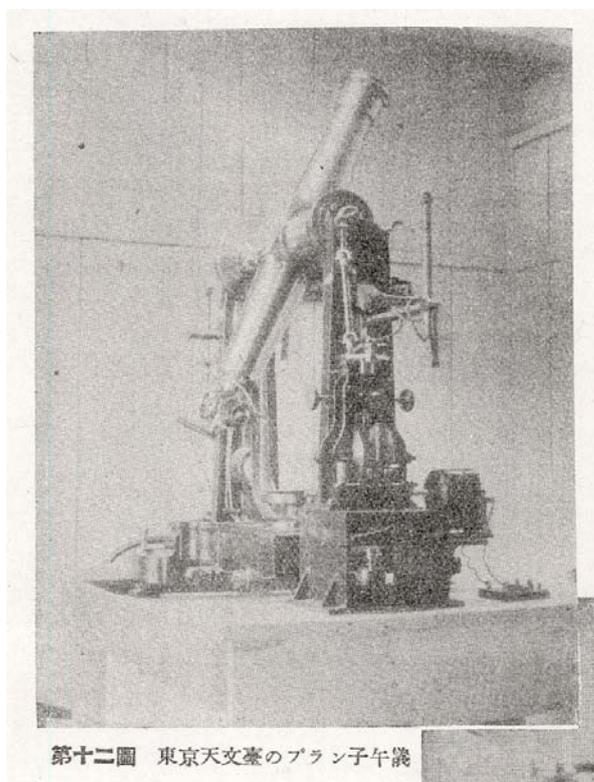


写真 1

このプランの子午儀については全く情報を得ることが出来なかったが、中桐が天文情報センターに移り、見学エリア拡大の仕事を手がけたことが契機となり、レプソルド子午儀を発掘、復元、展示したことから、天文台に残された古い観測・測定器械類を発掘するようになった。そして天文台に残された古い子午儀をレプソルド子午儀室に集め、子午儀資料館を開設した。

その後、古い観測・測定器械類の探索のために、天文情報センターのプレハブ倉庫を漁っていて、古い木箱の中に子午儀の一部らしい望遠鏡の片割れを見つけた。その箱に入った状態が写真2、その謂れも素性もわからないまま子午儀資料館に展示したものが写真3

である。



写真 2



写真 3

この子午儀らしい望遠鏡の一部を発見した際、写真3の刻印があることに気がついていた。



写真 4

フランス語の素養の無い中桐には PARIS とあるから、フランス製であることは分かったが、G. PRIN の PRIN をプランと読むことは知らなかった。

中桐が、天文情報センターのプレハブ倉庫から「プランの子午儀」の一部分を発見したのは、これらの文献を知る前であった。PRIN をプランと読むことを知っていれば、これらの文献を入手した時に、すぐにも気がついたはずだった。天文情報センターの大部屋でこれらの写真を昼休みに集まる人たちに見せていた際、フランス語では PRIN はプランと読むと教えてくれる人がいた。そこで、倉庫の古びた箱から出てきた望遠鏡の片割れがこの記事にあるプランの子午儀であることが分かったのである。ちなみに中桐の時折の写真を見せるイベントは「紙芝居」と揶揄されているが、貴重な情報収集の場である。

中桐は、ただいま天文台 48 年生であるが、水沢に一度も行ったことがない。今回、1 号官舎の保存と活用 WG の仕事で水沢に行けることになり、大きな目的の一つがこの「プランの子午儀」の探索であった。今や、子午儀を使った観測は約 50 年前には終了しており、その存在を気にかける人も無い状態であるから、水沢でもプランの子午儀がありますかと尋ねても、「さあ！」という返事で、水沢に来てお調べになったらと言われていたのである。

勇躍、それらしいものが格納されている部屋に案内され、見渡すと奥の方に今や見慣れた二つの古い望遠鏡があるではないか！一つはトロートの経緯儀、一つはプランの子午儀である。三鷹に残っていたプランの子午儀はその一部分しかないが、水沢に保管されているものはほぼ完全

な原形をとどめている(写真5)。



写真 5

水沢での今の保管状態では移動する事も、望遠鏡の姿勢を変えることもできなかったが、望遠鏡のセンターキューブの下から刻印のある場所を撮影したものが写真6である。



写真 6

刻印は「P. GAUTIER-G. PRIN SUCCR PARIS」と読める。三鷹に残っていたプランの子午儀の刻印とは違っているが、明らかにフランス製のプラン子午儀である。今回の水沢訪問の大きな目的の一つであった「プラン子午儀」が原型をとどめた状態で発見できたことは大きな収穫であった。水沢 VERA 観測所本館は耐震構造補強のため工事が始まる。そのため一時疎開をするために古いものの整理も行われており、一部は廃棄されるようだが、中桐には宝に見えるものもある。それらはぜひお譲りいただいて、国立天文台の貴重な資料として保存、展示したい。